

■今月の特選句

2024年10月



新品種のルーツはこれぞ黒葡萄

井口夏子

最近、葡萄の新品種が続々と登場している。緑色、深い紫黒色、明るい赤系統の品種も。これらのルーツである黒葡萄を感動的に眺めている。



体重計絵踏のごとくそつと乗り

北熊紀生

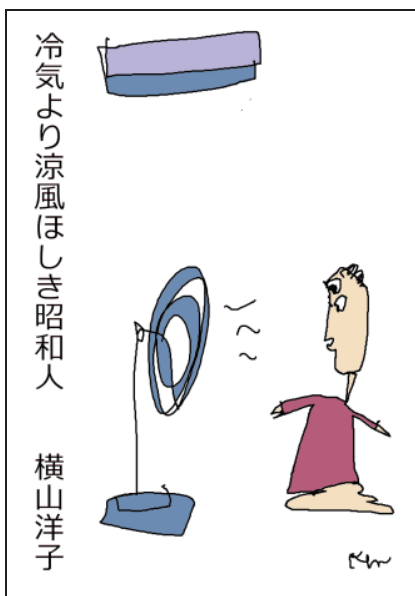
体重計に乗る時、それは真実と向き合う時である。体重計は一切、忖度も無く、事務的に数字で知らせてくる。恐る恐るの気分が表現された。



息すれば肺が灼けつく酷暑かな

伊藤浩睦

肺が灼けつくとはよく言ったもんだ。炎天下の空気は熱くて息ができない。この最近の暑さは、まさにこの通り。決して大袈裟でも誇張でもない。



冷氣より涼風ほしき昭和人

横山洋子

言葉遣いの名人である。冷氣と涼風の違いを明確に述べている。冷氣はエアコンによって作り出される人工物で、涼風は自然が作る天然物である。



台風来両手に土産の雨さげて

吉川正紀子

作者にとって台風は有難くないお客さん。手土産に雨と風を持って来る。台風を擬人化した句はいろいろあるが、この発想は誰もしていないね。



振り向けば男も日傘笑み返す

久松久子

日傘の人を追いついた。今の日傘は男性だったかそれとも…、と気になって振り向いた。男性だった。目が合って、ニッコリ。小さなドラマがある。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

数珠つなぎ追突もあり流灯会

・・・迂回路つくるわけにもいかず

井野ひろみ

我が日本語ときどき届かず秋遍路

・・・英語の方が通じたりして

沖枇杷夫

銀しゃりになる夢を見し稲の花

・・・夢を見たのは句の作者かも

岡本やすし

硬質の胡桃の色のやはらかき

・・・柔軟性で硬い物詠む

桑田愛子

靴がない妻は家出か星月夜

・・・心当たりは今朝の口論

卯之町空

芋虫や遺憾ですがと日本人

・・・遺憾ですがと弱虫外交

遠藤真太郎

げつぶまで爽やかに出るコーラかな

・・・コーラのイメージスカッと爽やか

藤森荘吉

忘れないことほど忘れられない罌雲

・・・忘れたければ雲を数へよ

日根野聖子

先輩も後輩もなき秋の蟬

・・・あつという間の人生なれば

大林和代

ふるさとの花火見下ろす最終便

・・・機上で観ればどんな形か

小笠原満喜恵

夏出水問はれる地球のキャパシティ

・・・減らさなければ地球の負担

上山美穂

ピカソには見えぬ色なき風の色

・・・俳人だけが知っている風

長井多可志

今まさに吾が庭の蟬豪雨なる

・・・時雨どころかザーザー降り

ほりもとちか

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

蛸の声蕭々と暮れにけり	相原共良
手に受ける滴り手より滴りぬ	相原共良
羅の裳裾ゆれつつまとひつつ	相原共良
粗食でも食える幸せ敗戦忌	青木輝子
加齢病渡り鳥のごと医者通い	青木輝子
いつの世も男と女蛍の夜	青木輝子
朝夕を間違ふカーンと昼寝して	赤瀬川至安
貼りぐすり至るところに残暑かな	赤瀬川至安
つくつくし経を唱へて往生す	赤瀬川至安
颱風圏を外れてをるに大雨に	井口夏子
待ちわびし秋風肌をよろこばす	井口夏子
ままごと主夫やシングル独りめし	池田亮二
おれ盆踊りきみブレイキン夏の宵	池田亮二
盂蘭盆会暇な宗派もあるらしき	伊藤浩睦
草野球雨に降られて水喧嘩	伊藤浩睦
台風十号のたりのたりの気まぐれ屋	稲葉純子
億ションの窓に大夕焼のスクリーン	稲葉純子
お久しぶりねラインの文字に秋の声	稲葉純子
駅着けば大夕立や危機一髪	井野ひろみ
可愛いねふくれっ面のミニトマト	上山美穂
吟行に退屈はせず秋のバス	上山美穂
蓑虫の住所はくぬぎ五番枝	卯之町空
葛の花伝言板に幸子の名	卯之町空
昼下がりに口紅を買ふ秋支度	梅野光子
過ぎ去ってみれば台風騒ぎ過ぎ	梅野光子
草むらに虫鳴く朝の散歩かな	梅野光子
秋うらら神社開設ドル口座	遠藤真太郎
台本通り行くも行かぬも秋扇	遠藤真太郎

この頃は弱で使ひし扇風機
踊子になりし頃ありわたしにも
母よりも長生きとなり盆の月
熱闘の涙はじける甲子園
いつの間に天から降りし稲の花
酒米の旗をなびかせ秋の風
ジャスミンの香や上海の街角に
銀河鉄道夢の切符は光る君と
土地売りますの看板娘草の花
木の枝を噛んでるみたい大オクラ
新米と知らずおかわり知っておかわり
秋の暮古包丁の錆びを研ぐ
渡れない三途の川と天の川
台風に目をつけられし西日本
殺生を許せ許さぬ御器かぶり
現状はせつば切羽とつくつくし
ままごとのレンジチンして赤まんま
予報円日本を覆ふ野分かな
法被干す祭り仕度に今朝の虫
風の厨に今朝の秋風通り初む
秋の声仕事休んだニチヨウビ
炎天をよけて歩けと子らは言ひ
忘れさういつもマスクの友の顔
ヨーイヤサ太鼓トントン夏祭
タラップに蟬の片羽夏の果
盆波の高きにケータイ握り締め
ばばの手を添へをさな児の西瓜割
ワイパー全力道を煙らせ大夕立
をさな児の声はじかせる大花火

大林和代
大林和代
小笠原満喜恵
小笠原満喜恵
岡本やすし
岡本やすし
沖枇杷夫
沖枇杷夫
加藤潤子
加藤潤子
加藤潤子
門屋 定
門屋 定
門屋 定
北熊紀生
工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子
くるまや松五郎
くるまや松五郎
くるまや松五郎
黒田恵美子
黒田恵美子
黒田恵美子
桑田愛子
桑田愛子
桜井美千
桜井美千
桜井美千

米不足楠公飯で凌ぐ秋

モンローのそこはかとなく河に月

ラミーといふ牧場の虫すだく

三家族が緊急補正やお盆玉

朝散歩挽ぎたて胡瓜かじりつつ

宿題の孫に鳴け鳴け法師蟬

太陽を丸ごと背負ひ墓洗ふ

知らん振りするのが得手や生身魂

「息吸つて吐いてください」原爆忌

秋澄むや藍満足の色に染む

恋話し生き生き生きと生身魂

都会へと引き取られ行く生身魂

風よ吹け洗濯物は我が家の旗

両手が有る失敗しても大丈夫

番号札もらい病人になって長椅子

持病には雁字搦めの猛暑かな

丹田にドンと応える大花火

新米のお焦げふうふう戴きぬ

さぞ無念かたきを前に菊人形

冥土から参加してをり踊の輪

本堂に客は一人よ茶立虫

秋立つや背後に芸術控へさせ

赤とんぼ吾に突撃するやうに

老人の本音を吐きて法師蟬

秋の蚊を叩く闘志の無かりけり

怪獣の背中にチャック野分跡

不夜城を摘まみ出さるる虫の闇

盆の入りポチの遺したビタワンよ

ひとりでもちやんと咲きます蓼の花

流れ星願ふ間もなくあああああ

敷島鐵嶺

敷島鐵嶺

敷島鐵嶺

壽命秀次

壽命秀次

壽命秀次

白井道義

白井道義

白井道義

鈴鹿洋子

鈴鹿洋子

鈴鹿洋子

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

高須賀溪山

高須賀溪山

高須賀溪山

高田敏男

高田敏男

高田敏男

田中 勇

田中 勇

田中 勇

田中やすあき

田中やすあき

田中やすあき

谷本 宴

谷本 宴

谷本 宴

好物は最後にいただく生身魂

頂と裾だけ見せし夏の富士

村芝居住境に愚図る赤子かな

秋の蚊を叩けばパチンと太鼓腹

ひょっとこの口真似してる柘榴の実

艶さげ寅さん真似るや秋うらら

うぬぼれを語るそばから星流る

身に入むや吾によく似し羅漢さま

へなへなの野菜でしのぐ残暑かな

おほらかな家風なんです糸瓜棚

終はりなきやうな残暑や晩年も

亡き母の実家の家紋やきちかうは

孫去りて夫婦ふたりの秋簾

秋なのに異常気象か蟬が啼く

宿題は一族総出夏館

夏了り欠伸の多き村議会

戻り梅雨美男ガイドは雨男

わがままに生きて苦渋し原爆忌

八月に生まれ母への初不孝

九十過ぎの夏生きてゐて子へ不孝

秋暑し鶴小屋の水のなまぐさく

観覧車ごつごつ触るうろこ雲

草よりも一寸上を秋の蝶

灯火消すやうに摘みゆく島蜜柑

雲一朵無き秀麗の草千里

戦争はいかんいかんと法師蟬

新涼に遅いとみくだり突きつける

迷走の訳野分にもわかんない

枝豆やビールなしではただの豆

月城花風

月城花風

月城花風

土屋泰山

土屋泰山

土屋泰山

百目鬼強

百目鬼強

百目鬼強

長井多可志

長井多可志

長井知則

長井知則

長井知則

永井流運

永井流運

永井流運

長尾七馬

長尾七馬

長尾七馬

名本敦子

名本敦子

名本敦子

西野周次

西野周次

西野周次

花岡直樹

花岡直樹

花岡直樹

正眼の構へ崩さぬ枯蟪蛄

大根蒔くこんなに晴れた空の日に

きつねのかみそり振り向くたびに増ゆ

上弦の月の分身湖に置く

棉吹くや雨のはじめのピチカート

うちの子の横に美少女運動会

捨て案山子雀遊びに来てをりぬ

獅垣に囲まれて住む村となり

秋の日の指人形のよくしやべる

今ここにをりしがどこへ秋の蝶

絵日記にいやといふ程生る西瓜

極楽から飛んで来たのか汝よ蜻蛉

ぐったりと木々も疲れる残暑かな

台風に好かれ睨まれ暴れられ

酒徳利秋の夜長にもう一本

朝顔や約(つま)しき路地にいい男

本心は帰したくなき魂送り

天上は涼しからむに先祖来る

パトカーに乗せたいノロノロメガ台風

欠席の丸は太字の敬老会

斜に構へのらくら生きて穴惑ひ

鯖鮎に急ぐ先あり逢瀬あり

爺々と呼べど婆々とは鳴かぬ蟬

フライパン火力強める蟬時雨

敬老の日や魚の目に水見えず

蛇届く「漂流郵便局」宛に

蟪蛄の動きはまるでオノマトペ

墓参りせくな老楽これからよ

浜田イツミ

浜田イツミ

浜田イツミ

東 麗子

東 麗子

東 麗子

久松久子

久松久子

日根野聖子

日根野聖子

藤森荘吉

藤森荘吉

細川岩男

細川岩男

細川岩男

ほりもとちか

ほりもとちか

南とんぼ

南とんぼ

峰崎成規

峰崎成規

峰崎成規

明神正道

明神正道

明神正道

棕本望生

棕本望生

棕本望生

朝顔のつるのいやがる右回り
透け感あり赤とんぼうとワンピース
まあまあと台風なだめ石鎚山
洗顔の手をとめ虫の声を聴く
せりあがる胡弓哀しき風の盆
存分に待たせ流星ひとつだけ
箱買いの梨も気付けばあとひとつ
一匹の烏賊は干されて一枚に
化け方を忘れるほどの良夜かな
夜学の子夢中に夢を見てをりぬ
良夜かな金平糖の角触れて
七夕や二つの定規寄せ合ひて
顱頂(ろちよう)にも水をぶっかけ草むしり
枝の贅盗られつばなしのどじな鵜
鰯釣り鱗まみれの五指光る
帰省子やハザードマップとにらめっこ
広告はひと足早く秋めけり
パキでなくパシリと割れる夏煎餅
法師蟬末期の際を説法す
台風の名前負けして安堵かな
新米に梅とごま塩豊の秋
スマートになりておめみえ秋刀魚かな
ひと夏の疲れの色や秋簾
かくれんぼコスモス園に秘密基地
赤ペンで答えを埋める八月尽
ふたサイズ広げし指輪豊の秋
台風の道草寄り道お断り
梅干の皺がつぶやく戦中派
軍刀はへし折つてしまへ敗戦忌
汗だくの患者に医師がドアボーイ

森岡香代子
森岡香代子
森岡香代子
八木 健
八木 健
八木 健
八塚一青
八塚一青
八塚一青
柳 紅生
柳 紅生
柳 紅生
柳村光寛
柳村光寛
柳村光寛
山内 更
山内 更
山下正純
山下正純
山下正純
横山洋子
横山洋子
吉川正紀子
吉川正紀子
渡部美香
渡部美香
渡部美香
和田のり子
和田のり子
和田のり子